

48. 札幌市認可保育園での加配制度の現状

須藤 章、楠 幸博、小笠原由法

【はじめに】

近年、神経発達症（知的障がい、自閉スペクトラム症や注意欠如多動症など）の子どもが多く認識されるようになり、その子どもへの合理的配慮や早期療育が求められるようになってきている。就学後は教育委員会が介入することによる特別支援教育等が充実しているが、就学前の保育園では、どのように支援体制がなされているのか不明である。加配の制度（「障がい児保育補助金」または「加配保育士雇用促進補助金」を得て、神経発達症の園児をみる専属加配保育士を新規に雇用する制度）はあるが、どの程度、保育園で実現できているのか、その問題点はないのかを明らかにするため、今回の調査を行った。

【方法】

令和5年8月に、札幌市認可保育園の管理者に向けて16項目のアンケート調査を行った。回答はWebによるアンケートフォームまたはFAXとして回収した。

【結果】

依頼した保育園397施設のうち249施設から回答を得た（回収率63%）。1施設の平均的な園児数（中央値）は81～100人であった。神経発達症を疑う園児がいると回答したのは208施設（84%）あり、1施設で5人以上が6割を占めていた（図1）。一方で、加配の制度（「障がい児保育補助金」または「加配保育士雇用促進補助金」）をこれまでに活用したことがあると明確に答えたのは167施設（67%）であった（図2）。加配制度を利用した対象は、精神発達単

独の遅れや精神運動両面の発達の遅れが圧倒的に多く（96%）、運動発達単独の遅れは極少数であった。現在、「加配保育士雇用促進補助金」を活用できたのは62施設（37%）で（図2）、加配の制度を利用して保育職員を増員（新たに雇用）できなかった施設が全体の67%を占めており、現在も「加配制度を利用したいが、保育職員の増員はできていない」と答えた施設が全体の4割を占めていた（図3）。運動発達の遅れや神経発達症を疑う子どもの対応に困った場合の相談先としては、「両親に相談する」や「巡回保健師や保健センター

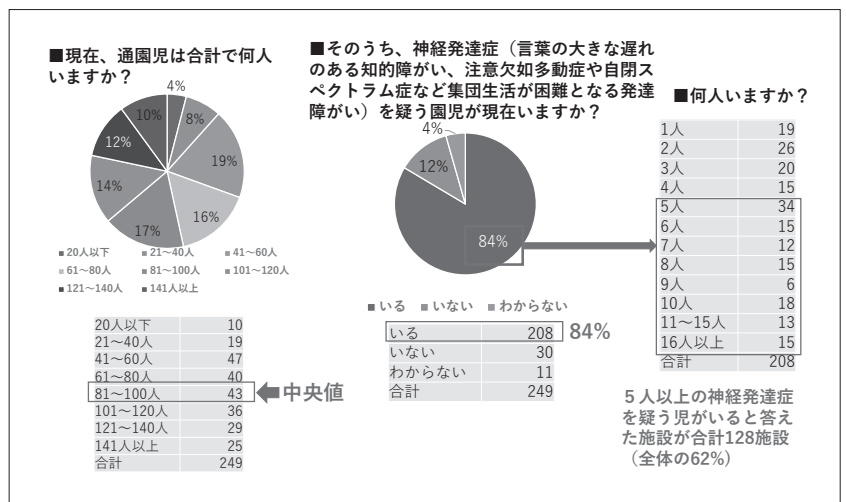


図1

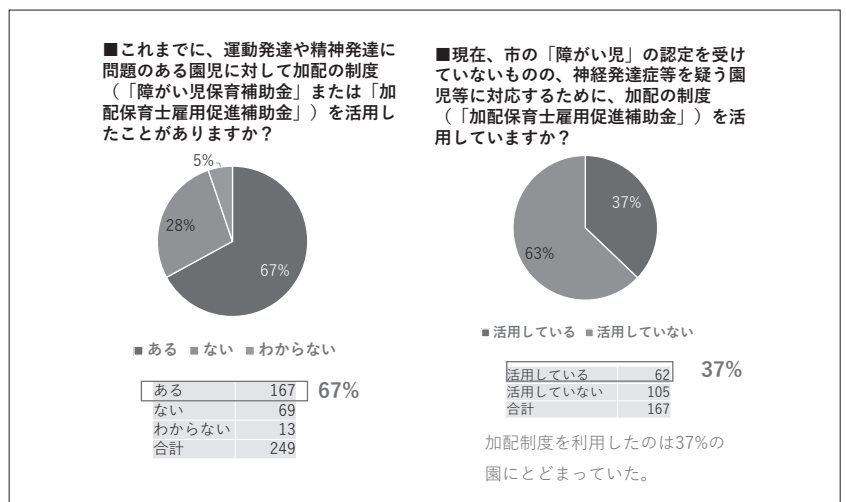


図2

に相談する」が6割以上を占め、「医療機関に受診を促す」や「療育施設に相談する」も半数近くを占めていた。「園医に相談する」は2割であった。札幌市の加配制度に関しての問題点として、「障がい児保育補助金が安すぎる(48%)」と「加配制度を利用したいが、保育職員を増員できない(55%)」の意見が多かった(図4)。自由意見では、「障がい児保育という名称が保護者の承諾を得にくい」「特別支援や個別対応などの文言を用いて制度の呼称を改めて欲しい」「デイサービスの利用が必要な園児に対する補助金があると助かる」「幼稚園では園として必要な場合、保護者が認めていなくても加配の申請ができる道の補助金制度があるが、保育園ではない」「1対1で子どもを見てもらえると親が勘違いしがち(加配制度は園児3人に対し1人の加配保育士)」「補助金の額では、パート保育士しか雇用できず、募集しても応募がない」「専門知識のある保育士を雇用するのが難しく、専門知識を勉強する時間も取れない」「各園に心理士、療法士などの専門家を配置し、現場でどのように関わったら良いのかのアドバイスが欲しい」などがあった。

【考察】

日本のこどもの人口は最近10年で1割以上減ったとされているが、障害児保育の実施数は、最近10年間で1.7倍に増えたとのデータがある¹⁾。札幌市でも7年間で1.5倍に増えたとされ、令和4年度の障害児保育認定児数は222施設で501人いると報告されている。今回の札幌市認可保育園への調査により、精神発達面に問題のある神経発達症を疑う園児が多く施設で複数人確認されているが、加配の制度を十分に活用できていない現状が分かり、制度自体の問題点が多く指摘された。加配保育者の多くが非正規雇用で障害児保育の経験が乏しいことや担当保育者との連携が難しいこと

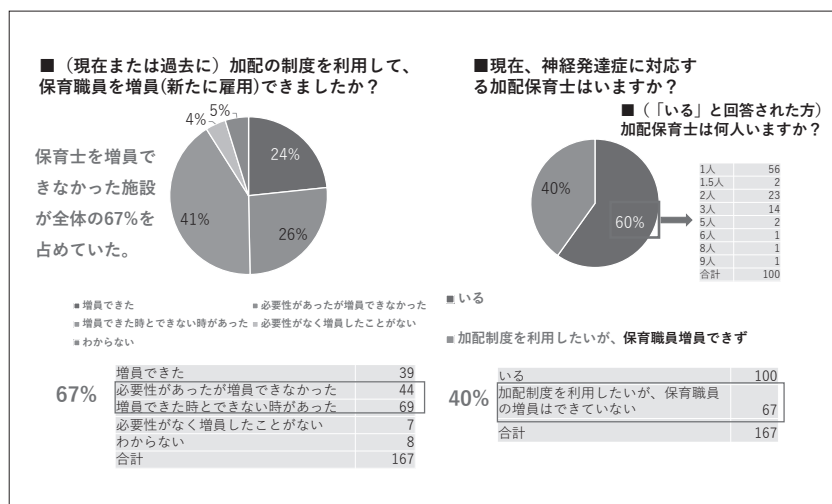


図3

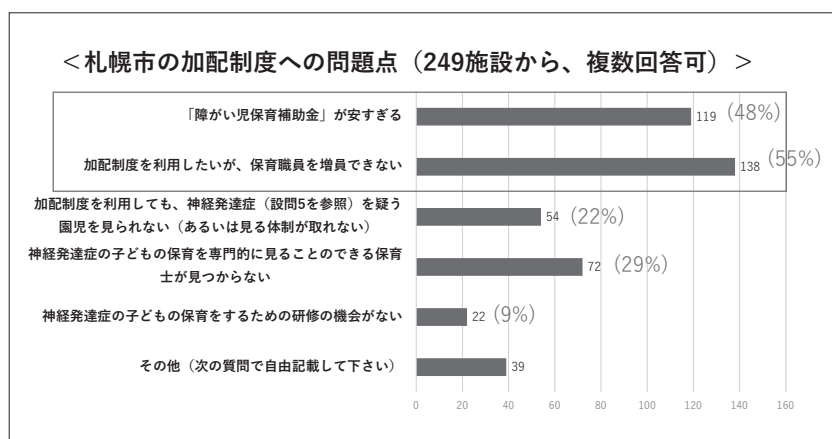


図4

を課題としてあげた論文報告²⁾もあり、この件に関しては今後検討すべきと考える。

【まとめ】

8割の保育園で神経発達症を疑う園児がいた。加配が必要でも、保育職員の増員を簡単にはできないことや、増員できたとしても障がい児保育の方法に関して悩んでいる現場の実情がわかった。加配に対応する保育士の全市的な増員と質の向上、経営的に成り立つ制度、デイサービスと同様の受けやすさが望まれる。

【文献】

- (1) 障害児保育の実施状況の推移. 日本こども資料年鑑(KTC中央出版) 297. 2023
- (2) 櫻井貴大. 障害児保育における加配保育士に関する研究動向. 岡崎女子大学研究紀要 54: 57-64. 2021